

札幌円山動物園 (ご提案)

～つながりの中にある未来～

世界で一番「命」に近い動物園をめざして

セラピティックアニマルランド

T.A.Lプロジェクト



NPO 法人インフォメーションセンター

2009年03月22日

札幌円山動物園の近未来像

円山動物園が提案している、動物園の未来像には、「種の保存」と「つながり」という二つのキーワードが中心に据えられています。

この二つのキーワードを動物園として提示したという事実には、極めて大きな意味があり、動物園が本来持っているはずのポテンシャルを十分に発揮するための重要なコンセプトを世界に先駆けて提示しているといえます。

このコンセプトを具現化していくことによって、札幌市の多くの市民の福利に寄与するだけでなく、現代社会における力強い未来像を提示するという役割を担うことができます。

今回、私ども NPO 法人インフォメーションセンターは札幌円山動物園が提示している未来像を具現化するための具体的なご提案をさせていただきたいと思えます。

近未来像を具現化するための前提

「種の保存」と「つながり」を具体的な活動に変換するためには、「つながり」という抽象的な概念を、実際の活動と直接的につながる概念に変換して、構造を整理する必要があります。

そこで、「つながり」という概念を本質として、その本質を生み出す活動概念として「教育」「セラピー」という二つの概念をご提案いたします。

これで、円山動物園の未来像を担う概念は、「種の保存」「教育」「セラピー」という3つの言葉で表現され、これらの活動が具体的に実施されることによって、「つながりの中にある未来」を経験することになります。

また、これらのコンセプトを具現化した動物園活動は、世界で一番「命」に近い動物園となります。

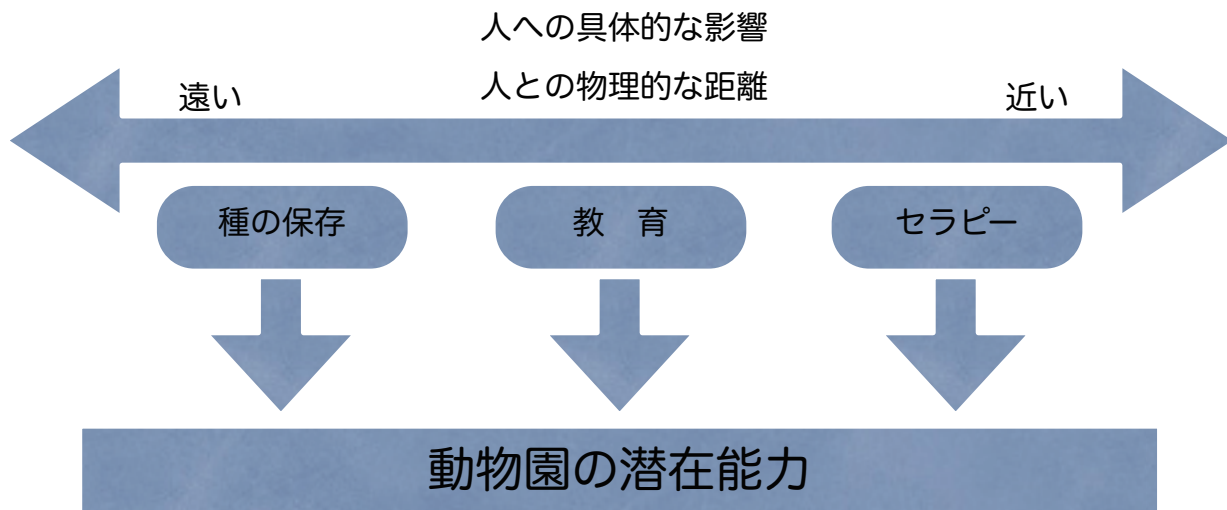
このような考え方の整理によって、動物園を運営していくことは、社会的なニーズに応えている活動です。毎年3万人以上が自殺をし、子どもから大人まで多くの人々が「生きること」に困難を感じる時代となってしまいました。

この生きることへの困難さは、程度の差はあるにせよ、大多数人々が抱えている感情であり、当然、札幌市でも多くの問題が提示されているはずです。

上記整理によって運営される動物園は、これらの問題に具体的なアプローチを提供することが可能になります。それは、すなわち札幌市民に幸福を届けることであり、現代社会における未来への一步を具体的に示す活動となります。

三つの概念を利用するときの構造図

動物園・人と動物の関係構造図



「種の保存」「教育」「セラピー」という3つの概念は動物園という枠組みの中で共存し、コラボレーションを展開することが可能です。

このコラボレーションを可能にする構造図が上記構造図です。3つの概念は、構造整理を間違えると、お互いに背反する可能性があります。上記構造整理が徹底されればコラボレーションを生み出すこととなります。

概念整理から具体的な活動へ

具体的な活動を考えるときに重要なことは、動物園が最も大切にしなければいけない活動コンセプトの理解です。動物園が最も大切にしなければならぬコンセプトは以下の二つになります。

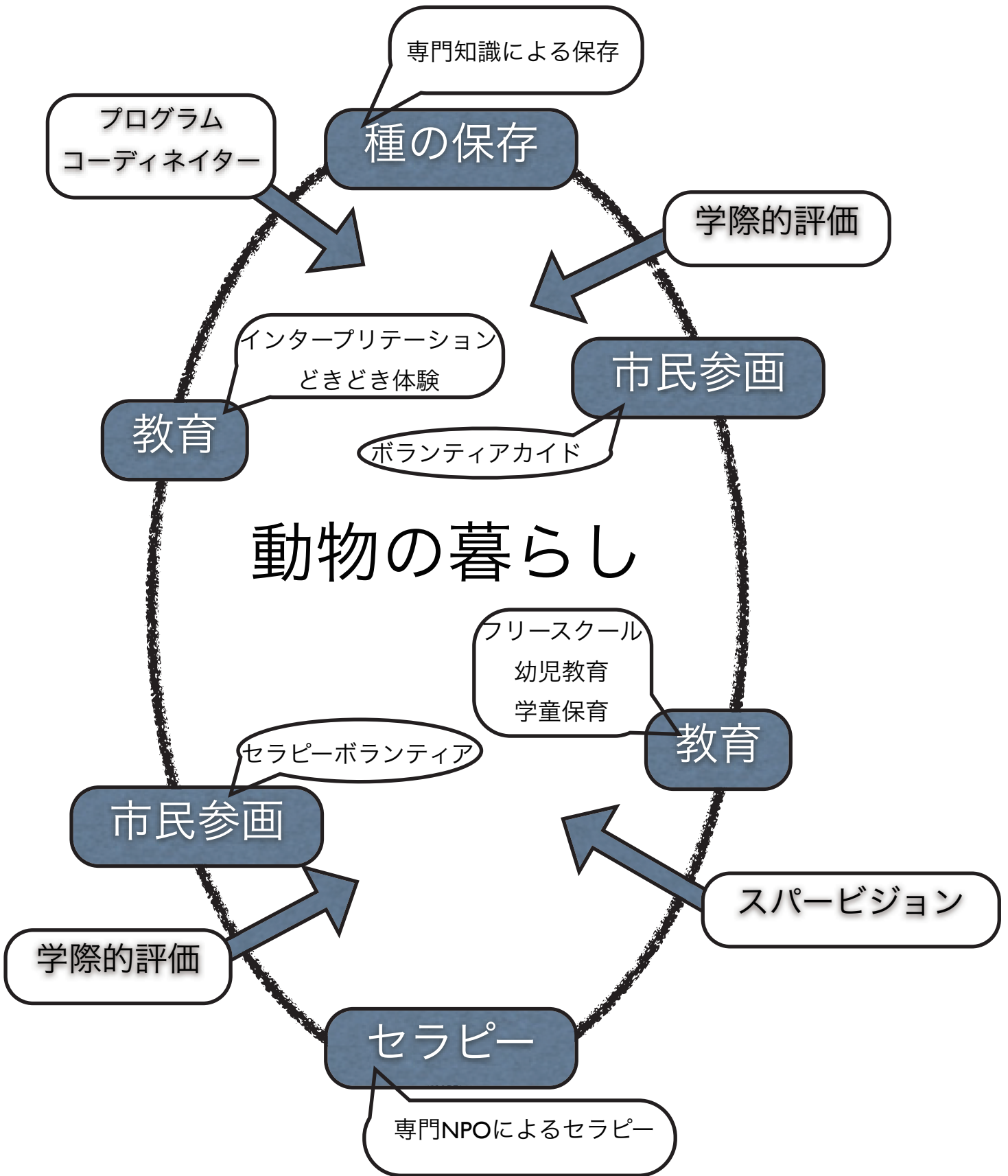
1. 動物の暮らしの日常がある

2. 不幸の上に幸福をのせない

動物の暮らしの日常が存在していることは、動物園では当たり前のことです。しかし、ここで重要なのは、この当たり前に存在する動物の暮らしの日常を「最も大切なこと」として位置づけるということです。動物園という施設で起こる現実として、日常を「陰」として、最も価値の低いものと位置づける傾向があります。これは、動物園がテーマパークやアミューズメント施設になってしまった場合に起こる現象で、円山動物園が目指す未来像からは遙か遠くなってしまいます。

また、不幸の上に幸福をのせないという倫理観も動物との暮らしを高い価値として提示する上で重要です。動物たちの不幸の上に人間の幸福が乗るような仕組みや、動物園で働く人々が、不幸になることによって幸福を生み出すような仕組みもまた、円山動物園の目指す未来から遠く離れてしまいます。

世界で一番「命」に近い動物園の活動イメージ



世界で一番「命」に近い動物園の活動概要

種の保存

- ・絶滅危惧種や貴重種を保護目的で飼育する活動。
- ・プライオリティーのもっとも上位に「保護」があり、保護行為を中心に活動を展開する。
- ・来場者に対するアプローチは、観察がおもな活動。
- ・wsなどを実施し、希少種保護の意味を伝達の必要性もある。

教育

- ・動物の保護の意味や、動物の暮らしの意味を来場者にインタープリテーションする活動（インタープリターは研修を受けた飼育員が最適）
- ・動物園という「場」を教育現場として捕らえて実施する活動。（フリースクール、学童保育、幼児教育などへの市民参加）

セラピー

- ・専門知識をもった組織によるアニマルセラピーの実施。
- ・障害者リハビリテーションの実施。
- ・軽度発達障害に対する療育活動の実施。
- ・子どもたちへの情操教育の実施。

市民参画

- ・ボランティアガイドやボランティアアテンダントなどの活動。
- ・セラピーボランティア（講習会など資格制度あり）

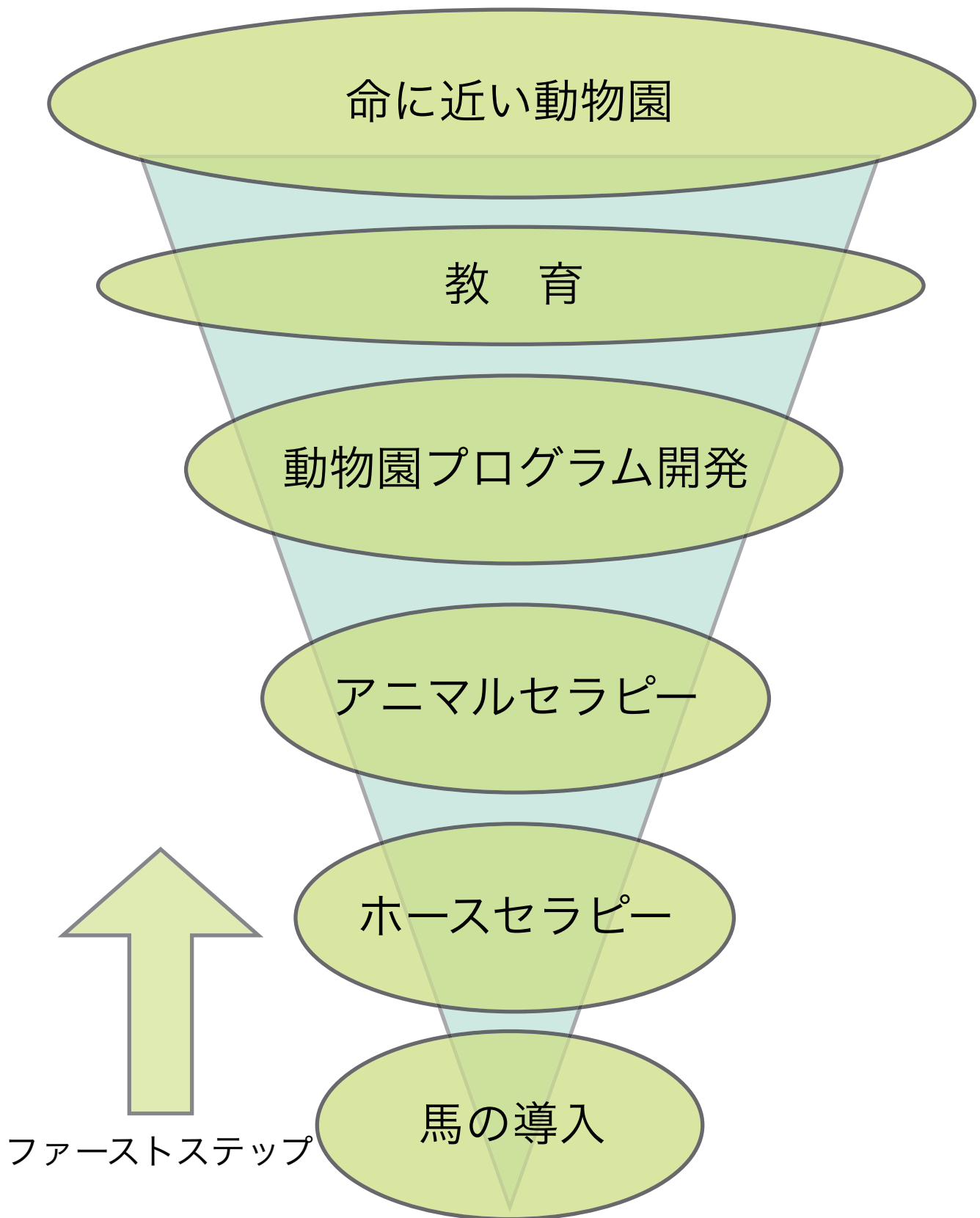
外部からの支援

- ・大学などの研究機関と共同で外部評価の実施
- ・プログラムコーディネーターやスーパーバイザーによる、運営アドバス。

すべての活動は、有機的つながりの中で運営される必要があります。これらの運営は、日常活動というベースの上に成り立つ活動であり、決してイベントとしての意味だけで運営されるものではありません。

このような運営の考え方を徹底し、コンセプトに基づいたプログラムを提供することによって、円山動物園は動物園の持つポテンシャルを最大限に発揮する、世界で最初の動物園になることができます。

世界で一番「命」に近い動物園へのプロセス図



ファーストステップ

ファーストステップは、セラピーに関わるステップです。このステップが、今回のプロジェクトにおける、もっと大きなポイントになる部分です。

この部分をクリアーすることによって、円山動物園における、あらゆる活動がつながり、目指すべき未来像を具現化できるようになります。

今回の企画書ではこのステップを重点的にご提案いたします。

セラピティックな活動が生み出す効果

セラピティックな活動が円山動物園で始まることによって、円山動物園の社会的な意義が向上し、入場数だけでは計ることのできない価値を提案し、動物園の存在意義を高めることとなります。もちろん、これらの価値評価は外部研究機関などとの連携で進めていく必要がありますが、今までの評価よりもさらに具体的で実質的な評価を得ることが可能になります。

また、今までやっている教育活動や体験活動にも深みと厚みが生まれることとなります。

さらに、円山動物園で働くスタッフの方々が日常としての飼育活動と、お客様に提供する活動との狭間にある様々な問題解決のお手伝いもできるようになります。

ホースセラピーの導入

円山動物園でのセラピー活動において、まずはじめに実施すべき活動は「**ホースセラピー**」です。ホースセラピーは馬の助けを借りて実施する活動で、フィジカルなりハビリテーションやメンタルなりハビリテーションの両方で利用できるセラピー活動です。

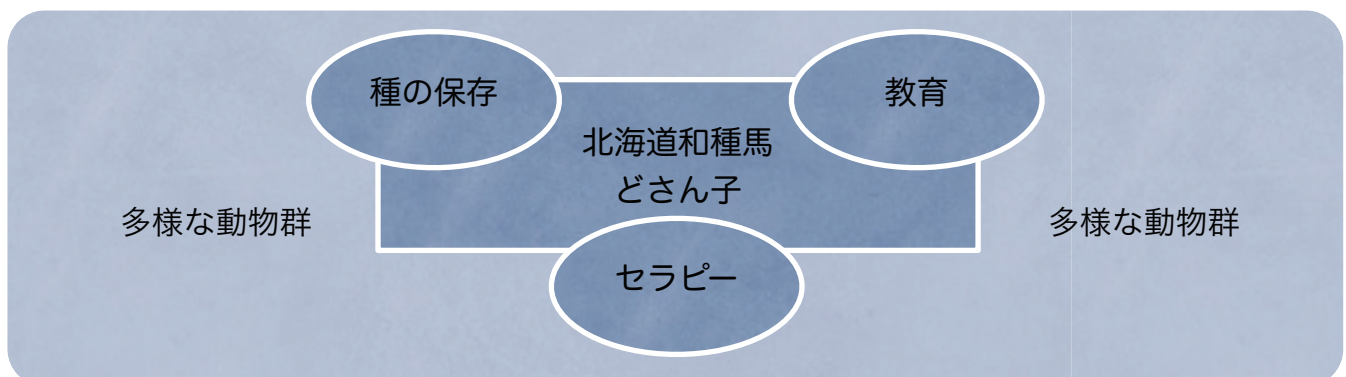
また軽度発達障害と呼ばれる子どもたちへのセラピー活動でも、大きな効果を上げています。

北海道和種馬を利用する意味

円山動物園でのホースセラピーを展開するときにはパートナーとなる馬は**北海道和種馬**を利用したいと考えています。

北海道和種馬は、「種の保存」「教育」「セラピー」という3つのコンセプトのすべてに具体的な関わりを持つことができる希少な動物です。

これは、円山動物園が北海道にあることの最大の特徴を生かすことにつながり、円山動物園の個性をアピールすることにもなります。



円山動物園セラピーセンターの設立



これらのセラピー活動を実施する主体法人として、私ども NPO 法人インフォメーションセンターが参画したいと考えています。

円山動物園でホースセラピー活動を実践するためには、多様なクライアントの対応ができるセラピー理論と、教育やセラピーの利用できる北海道和種馬の育成能力が不可欠です。

NPO 法人インフォメーションセンターはこれらを専門的に提供している唯一の団体となっています。

NPO 法人インフォメーションセンターが事業主体者となり、円山動物園とコラボレーション組みながら、円山動物園内に「**セラピーセンター**」を設立し、その施設と拠点で活動を展開していくことを目指します。

